

# 県警 災害現場想定し訓練 がれきからの救助方法確認

災害現場で活動を円滑、  
確実に進むため、県警は25  
日、八街市内の解体工事業  
社「大同産業」の敷地内で、  
がれきからの救出訓練を行  
った。同訓練は今年2月に  
続いて2回目。機動隊員や  
周辺署員ら約130人と、  
NPO法人日本救助犬協会  
の救助犬11頭も参加。救助  
方法や互いの連携手順を確  
認した。

訓練は、地震で建物が崩  
壊して多数ががれきの下敷  
きになったと想定。機動隊  
員らは一斉に動きを止める  
とかすかな音を聞き分けな  
がら、U字溝に閉じ込めら  
れた被災者役を探し当て救



がれきの中から被災者役を助け出す県警機動隊員ら  
＝八街市の大同産業(県警提供)

助した。また、救助犬が発  
見した被災者役を、機動隊  
員と同社の重機が共同作業  
でがれきを撤去して助け出  
した。

消防学校への入校経験の  
ある機動隊員が、U字溝内  
など狭い場所からの救出方  
法や専用の器具の扱い方を  
実演。同社の関係者はコン  
クリート製電柱の破壊や内  
部の鋼線の切断の仕方を伝  
授した。

県警警備課は「被災現場  
そのものの状況で貴重な訓  
練ができた。今後、部隊間  
で技術の向上を図るとも  
に、さまざまな現場を想定  
した訓練を行い災害に備え  
たい」と話している。